戦前の繁栄と戦争による壊滅的被害

大阪港とともに発展した港区

戦前の大阪港風景　沖合に停まる大型船から小型船に荷物を下ろし岸まで運んだ

江戸時代、**「天下の台所」**と呼ばれた大坂は日本で最も流通と商業が発展していた都市で、今の築港・天保山エリアは、その玄関口として栄えました。1868（明治元）年に開港した大阪港（川口波止場。現在の西区川口）は、川幅が狭く土砂が堆積して大型船の入港に支障をきたし、外国からの大型船は近くの兵庫港に入港することになり、大阪港は寂れる一方となりました。

このため、海の入り口である天保山に近代式の大きな港を作ることが大阪市民の悲願でしたが、工事が難しいことと莫大な資金が必要なことからなかなか実現しませんでした。

それでも多くの人々の努力が実り、1897（明治30）年、当時の大阪市の予算の20数倍もの費用をかけ、港をつくる工事がはじまりました。工事は難航しましたが、1903（明治36）年に**築港大桟橋**（現中央突堤）が完成しました。また、同じ年に、西区花園橋から築港まで続く**築港大道路**（現みなと通）が開通するとともに、大道路上に大阪市初の路面電車が築港桟橋～花園橋（現在の西区九条新道）で開業しました。明治末期から大正・昭和にかけて大阪港が大きく発展していくに従い、人口も急速に増加。この頃、今でいう総合レジャーランドである**築港大潮湯**や**市岡パラダイス**ができ、今の八幡屋公園に建設された**大阪市立運動場**では全国レベルのスポーツ大会が開催されました。

そんな発展の中で、港区は1925（大正14）年4月に誕生し（人口約28万人）、1943（昭和18）年に現在と同じ区域になりました（人口約27万人）。港区は、第二次世界大戦が始まるまでのほとんどの期間において、大阪市で人口が一番多い区でした。

一方、大阪港の修築事業は、財政難などの困難を乗り越え、1929（昭和4）年、33年の歳月をかけて第1次工事が完了しました。

大阪港完成の様子：1929（昭和４）年
1897(明治30)年に起工した大阪港は、1929(昭和4)年、ようやく完成しました。貿易量が増加し、第二次世界大戦直前には、日本で１番貿易量の多い港となりました。

さらに、第一次世界大戦（1914～1918年）以降、日本経済の発達にともない、大阪港は貿易港としての機能をさらに強化することが求められ、第1次修築工事の完了を待たずに第2次工事が起工されました。その後も大阪港は発展を続け、第二次世界大戦（1939～1945年）直前には日本で最大の貿易量を誇るようになりました。

築港大潮湯
1914(大正3)年、今の築港２丁目辺りに建てられました。温泉、海水プール、映画館や演芸場、レストランがある、総合レジャーランドで、とても人気がありました。

市岡パラダイス
1925(大正14)年～1930(昭和5)年。大劇場、映画館、アイススケート場、飛行塔など当時では最先端の娯楽施設が揃った「市岡パラダイス」は、大阪市の新名所として人気スポットとなりました。

大阪市立運動場
1923(大正12)年、極東選手権競技大会の開催のために建設されました。27000席のスタンドのある陸上競技場、日本初の50mプールなどがあり、大正から昭和にかけて全国レベルのスポーツ大会が行われました。戦後は国際見本市場として利用され、1985(昭和60)年にインテックス大阪ができるまでは、国際見本市会場となり、現在は八幡屋公園となっています。

戦前の築港は南北に分かれて発展

松井　義信 さん（84）
三条通（今の築港）生まれ

戦前の築港は、九条から大阪港まで通っていた市電（路面電車）を境にして南北で分かれていましたね。市電より北側は港湾関係の施設や倉庫があって、南側は海運関係の施設や会社が多かったんです。その関係で南側は外国人が来るようなレストランやパン屋、カフェやビリヤード場、それに接待で使うような高級料亭もありました。潮風が体に良いと引っ越してきた中産階級が多かったのもあって、趣のある街でしたよ。大潮湯は何度か行ったことありました。中に演芸場や休憩所などがあり、30銭で一日中遊べました。

商店街や映画館などで賑わうまち

中谷　武司 さん（80）
三条通（今の港晴）生まれ

戦前のみなと通りの千船橋のあたりには、八幡屋新道といって今の西区の九条新道のような商店街がありました。映画館などもあって、とても賑わっていました。市電の本線と安治川線がちょうど合流する地点で、その間に市電の築港車庫もあったので、人通りも多かったですね。うちは食堂を営んでいたんですが、築港高野山が近くにあったので、お大師さんの日（毎月21日）は屋台もたくさん出ていて、ものすごい人出がありました。うちにも高野山へお参りした帰りのお客さんがたくさん来店されて賑わいました。

幼い頃の楽しく賑やかな思い出

村川　和惠 さん（86）
天保町（今の港晴）生まれ

今は海（港）になってしまった天保山のあたりで生まれました。実家はうどん屋をしていてにぎやかでしたから、幼い頃の楽しくておもしろい記憶はたくさんありますよ。海ではいわしがよくとれていて、昼以降になると買い手がつかないから、お鍋を抱えてよくもらいにいってました。もらったいわしは出汁に使ったり、天日干しにしたり、肥料に使ったりしていましたね。川向こうに日立造船があったんですが、大型船の進水式の時に、船が海に入ったら大波がたって対岸にあった家にまでダーッと水が押し寄せてきて水に浸かってしまいました。